



沖縄高専だより

Okinawa National College of Technology



高校総体開会式 H22.5月



九州沖縄地区高専体育大会 H22.7月



美ら島沖縄総体 H22.8月



美ら島沖縄総体 H22.8月



高専祭 H22.11月



高専祭 H22.11月

目次

- | | |
|--|------------------------------|
| 1. 校長より 高専創設の原点
～創造的実践技術者を育成する取り組みについて～ 2 | 9. 学生の活躍14～16 |
| 2. 卒業生へ送る言葉 3 | 10. 地域連携事業 17 |
| 3. 卒業にあたって4～5 | 11. 学生会より 18 |
| 4. 学年の学生の様子6～7 | 12. 寮生会より 18 |
| 5. インターンシップ体験記8～9 | 13. 後援会会長挨拶 18 |
| 6. 就職・進学状況10～11 | 14. 保健室より 19 |
| 7. 修了生へ送る言葉・修了にあたって 12 | 15. 平成23年度学生募集結果一覧 19 |
| 8. 高専祭13 | 16. 学生課窓口のご案内 19 |
| | 17. 平成23年度(前期)行事予定表 20 |



高専創設の原点

～創造的実践技術者を育成する取り組みについて～

校長 伊東 繁

高等専門学校は、昭和37年に創設され、まもなく創設50周年を迎えます。当時、日本の経済成長はめざましく、それを支える技術者を育成するため、中学卒業後の学生を受け入れ、5年間の一貫教育を行う高等教育機関として設立されました。

本校は、55番目の高専として平成14年に新設され、この春、第3期生となる学生諸君が卒業を迎えます。これまで、温かいご理解とご支援を賜りました後援会の方々、沖縄高専産学連携協会の関係各位、辺野古区をはじめとする地域の方々に改めて厚く御礼申し上げます。

さて、高専の創設以来、時代の変遷とともに取り巻く社会環境も大きく変わりました。

ご周知の通り、若年層の雇用問題、少子高齢化という社会構造の問題、食糧・資源・エネルギーの問題など、国民生活の足元を揺るがすような大きな問題が山積しております。

さらに、農業や地域産業の衰退など、地方の格差はますます広がっています。

このような状況にあって、沖縄高専は、高専創設の原点である創造的実践技術者を育成するという明確な目的のもと、実証的な取り組みを積み重ね、地域産業の発展に貢献するべく、質の高い教育環境を整備してまいります。

昨年、琉球大学の工学部、さらに今年に入り同学農学部と教育研究交流に関する協定を締結しました。これは、琉球大学及び本校の教育研究の活性化と連携を推進することを目的としたものです。

また、海外の教育機関との交流も積極的に推進してまいります。学生ならびに教職員の国際的な学術交流や共同研究の機会を図り、世界的な視野を持ち、豊かな感性と創造性を備えた技術者の育成に力を入れてまいります。同時に最先端の技術が本校に導入できるよう、その経路の確立に取り組めます。近い将来、本校から世界に羽ばたく技術者が生まれ、地域が生んだ沖縄ブランドの製品が世界に発信されることを目指していきたいと考えております。

次世代を担う人材の裾野を広げる活動も推進してまいります。現在、離島を含め、県下の小中学生を対象とした出前教室や、地域イベントへの出展などを行っておりますが、より多くの子供たちが科学技術に親しむ機会を持てるように、さらなる活動を展開してまいります。

今後も新しい技術の創出と、より高度な教育環境を実現し、地域の皆様、そして本校を巣立った卒業生が誇れるような沖縄高専を創り上げていきたいと考えておりますので、さらなるご理解とご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



機械システム工学科

5年学科担任 比嘉 吉一

機械システム工学科5年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。昨年来より連日報道されているように、全国的に大変厳しい就職状況が続く中、就職28名、進学16名で全員の進路が無事決定したこと、非常に誇らしく感じております。さて、皆さんとの付き合いを回想しますと、講義での付き合いばかりになりますが、1年次の「沖縄高専セミナー」に始まり、2年次「プログラミングⅠ」「材料力学設計Ⅰ」、3年次「材料力学設計Ⅱ」、4年次「総合構造設計」「インターンシップ」、5年次「CAE」と、幸運にも毎年顔を合わす機会があったことが思い出されます。特に、機械系エンジニアに必須の四大力学の一つである「材料力学」では、2年間の講義を通して、力学の奥深さ、理論体系としての美しさと面白さについて、私なりに自分の哲学を発信できたことと自負しておりますが、如何だったでしょうか？今春より新たな門出を迎える皆さんに「力学的視点から」一言・・・今後の人生において、仕事や社会生活でたびたび行き詰まる場面に遭遇するかも知れませんが、この際には、無理だと自分に限界を創らず現状に「停留」することなく、是非「積極的な活動」を行なって下さい。皆さんの努力（積極的な活動）による運動（擾乱）は非常に微小であっても、必ず外部環境（家族、会社組織などのコミュニティ）からの駆動力を得ることで、ポテンシャル障壁（直面する難局）を必ず超えることができます！ただし、こうした難局においても「活動できる」よう、「日頃からの努力」と「積極性」を境界条件として付与しておきます。この境界値問題の解は、「より良い外部環境が構築される」です。諦めず、常に努力し続けることを切望します。頑張ってください。

結びに、平成22年1月26日、同級生である玉城啓明君が不慮の事故により永眠しました。エンジニアとしての将来に夢半ばで夭逝した彼のためにも、今後の皆さんの大いなる活動・活躍と、沖縄高専OBとしての輝かしい伝統を積み上げて行ってくださる事を期待します。

情報通信システム工学科

5年学科担任 比嘉 勝也

情報5年の皆さんの担任になって3年が経とうとしていきます。早いものです。山口の大島商船高専より沖縄高専に赴任して突然の皆さんの担任指名でした。担任初日のSHR、誰一人名前がわからず戸惑ったこと、高専は初めてではないが緊張したことを昨日のように思い出します。講義が始まった早々、進路変更したいと言って泣く学生がいたり、授業中いつも寝る先輩がいたり、クラスマッチや運動会、高専祭では妙に張り切る学生がいたり、進級が難しいが気にしない学生がいたり。他の先生からいろいろ クラス・学生の悪いところをさんざん言われましたが、私はそのようには感じませんでした。クラスの雰囲気は良く、卒業のこの日までその雰囲気は変わっていません。

ただ感心するのは、皆さんが入学以来一人も欠けず卒業まで辿り着いたことです。皆さん自身の努力、家族やクラスメートの叱咤や励まし、ついでに先生方の協力、それらの結果ではないでしょうか。がんばっている自分自身を素直に褒め、周りへの感謝の気持ちをこれからも忘れないで下さい。私も皆さんにこの3年間、何かできたかなと考えましたが思いつきません。逆にいろいろ教わり、人として成長させてもらった気がします。

ありがとう。卒業し年齢を重ねても、変わらない皆さんで居てください。卒業おめでとう。



メディア情報工学科

5年学科担任 姉崎 隆

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。これから社会の大海原に漕ぎ出す門出となります。皆さんが自ら信じ、自ら思う方向に進んでください。きっと明るい未来が拓けると確信しています。

どこかに通じている大道を君は歩いているのじゃない
君の前に道はない
君の後ろに道は出来る
道は君のふみしだいて来た足あとだから
道の最端にいつでも君は立っている
何という曲がりくねり
迷いまよった道だろう
そして
道は君が全身の力で拓いて行かねばならない
歩け、歩け
どんなものが出来ても乗り越えて歩け
この光り輝やく風景の中に踏み込んでゆけ
君の前に道はない
君の後ろに道は出来る

この詞を、皆さんの卒業のはなむけとします。道の頂にきて一休みしたいとき、峠にきて道を振り返りたいとき。高専の出来事を思い返し、高専の友と旧交をあたためてもらえたら幸いです。



生物資源工学科

5年学科担任 三枝 隆裕

5年生並びに専攻科2年生、ご卒業おめでとうございます。高専での生活（授業、高専祭、部活など）それぞれに様々な思い出が残っていることと思います。私たち教員も皆さんから多くの思い出や元気を貰いました。高専で学んだことが、色々な場面でヒントになり少しでも皆さんの役に立つことを願っています。

これから皆さんは様々な道に分かれて旅立つ訳ですが、前途には洋々たる未来が広がっています。しかし、苦しい時期や荒波が押し寄せることもあるでしょう。そんな時には、皆さんには高専と一緒に過ごした仲間、喜びや苦しみを受け入れてくれる友達があなたの近くにいることを思い出してください。しかもその友は、情報、メディア、機械、生物の多方面の知識を持った仲間、困った時に相談すれば、必ず解決の道が見つかると思います。

苦しい時を乗り越えれば必ずステップアップした自分が見つかります。ヒトには、「出来ない理由を探すヒト」と「出来る方法を考えるヒト」がいます。常に出来る方法を考えて、あきらめないで、留まらないで、前向きに自信を持って生きてください。

教員一同も遠くから見守っていますので、学校に遠慮なく訪ねて来てくれるのが一番の楽しみであり喜びです。

二度と生まれて来れない人生ですから、大きな夢を描いてそれを思い切り叶えちゃってください。

「努力して、幸運の女神と自分に振り向かせることが大切！（王貞治）」

卒業にあたって

機械システム工学科



5年 眞謝 大地

親元を離れ期待と不安でいっぱいだった入学式が5年前のこととは思えないほど、高専で過ごした日々は充実したものでした。慣れない寮生活では友達が作れるかどうか不安だったけどみんな個性的で面白く、すぐ打ち解けることができました。そんな高専生活が一番苦労したのはやはり授業時間の長さでした。1コマ100分ということでおしゃべりしたり居眠りして怒られたりしたけれど今では楽しい思い出の1つです。高専で私が一番頑張ったのはもしかすると部活動かもしれません。友達と共に汗を流し、励まし合って壁を乗り越えたことは肉体的、精神的に強くなることができました。部活で得たものは私の一生の宝ものです。

5年間を振り返ってみて思い出深いのはやはり5年生になった今年です。体育祭、高専祭、クラスマッチと高専生活最後のイベントということでどれも心に残る楽しいものでした。学外では友達とペンションに泊まったり、イベント後には打ち上げしたりと大勢で楽しくできたのは高専の5年間という特別な環境だからできたことだと思います。なんだか最後までレポートや課題、卒論と追われていた気がするけれど、今なら自信をもって高専にきてよかったと言えます。私がこうして20歳を迎え、一人前になれたのは学生以上に個性的な先生方やいつも一緒に遊んだり馬鹿やったりした友達、これまでもそしてこれからも支えてくれる家族のおかげだと思います。本当にありがとうございます！これからは立派な社会人になることでみんなに恩返ししたいと思います。



5年 城間 ひかる

この原稿の依頼が来たのは卒業研究最終報告会の2日前、卒業論文提出の7日前。正直それどころじゃない！と思いましたが、こういって原稿を書いているとしみじみ「卒業なのか」という気分になります。入学したての頃に、機械科の男女比に驚き、しかしそれでも女子が一人だけでないことに「良かった」と安堵したのが懐かしいです。花の高校生時代、何をしてたかと思い出してみれば、一生懸命フランチの図面を引いたり、工場で文鎮を作ったり、エンジンの分解組立を行ったり。「私たちの花の女子高校生生活は何処に!？」と語り合ったこともありました。そんな中でも青春らしい思い出も沢山ありました。私は5年間寮生活でした。寮生活では、友人と一緒に勉強したり、馬鹿やったり、ガールズトークをしたり、女子寮ならではの楽しさがありました。学校ではクラスの9割以上が男子という機械科で色々苦労することもありましたが、みんな良い人たちで困ったことはありませんでした。

この充実した5年間で、私は多くのことを学びました。勉学の面では自分に合った自習方法の発見や自習を続ける努力を。人間的な面では、協調性やコミュニケーションの取り方、自立精神など、挙げ始めたらキリがないほど、一回りも二回りも成長しました。

もう高専5年生である時間も終わりです。「沖繩高専の学生」で、「3期生」で、「機械科」で本当に良かったと思います。進学や就職など進路は様々ですが、みんなが立派な社会人になって、悔いのない素敵な人生を謳歌できるような、そんな未来を夢見ながら卒業したいです。

情報通信システム工学科



5年 愛澤 優

自ら沖繩高専への進学を希望したはずなのに、島を出発する飛行機の中では寂しくて泣いてしまった、そんな5年前の春がつい最近のように思えます。あつという間だった5年間を思い返してみると、本当に有意義な学生生活だったと誇りに思います。

多趣味でやりたがりの私は、勉強に部活に趣味に遊びにと、色々なやりたいことをたくさんやってきました。この紙面では書き尽くせないほど充実した生活を送ることが出来たのも多くの方々のおかげです。学生の意見に対してすごく融通を利かせてくださる情報通信システム工学科の先生方。辛いことも楽しいことも分かち合える友達。そして特に、私の学生生活をあらゆる面で支えてくれている両親・兄弟。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

高専を卒業したあとは編入先の大学でまじまじと学生生活をおくる予定ですが、「両親は就職してほしいという本音を隠して私の意見を尊重してくれた」という話を兄から聞いてからの正直な気持ちは複雑なところなんです。就職して親を楽にさせてあげればよかったと思う気持ちは強いです。しかし、私の意見を尊重してくれた親の事を考えると、これからの大学生活で精一杯勉強に励むことが一番の親孝行だと思います。そう信じて、両親への感謝の気持ちを忘れずに、前へ進んでいきたいです。

ここ沖繩高専で過ごすことができまして。本当にありがとうございました。



5年 新川 真以

長いようで、あつという間の5年間でした。卒業を間近に控え、今思い出すことは、辛くも楽しかった5年間の充実した高専生活です。生徒から学生へと変わり、出だしが好調だったため、油断もあって、成績がどん底に落ちたこともありました。「何とかしなきゃ!」と励ましてくれた友人がいなかったら、もしかすると私は、今、卒業生としてこの学校にいなかったかもしれません。

慣れるまでの3年間、慣れてからの2年間、生活リズムもレポートにかかる時間も、部活に行く頻度もがらりと変わりました。就職活動では、リーマンショックによる就職氷河期に、毎日不安に駆られながらエントリーシートを書きました。就職難にも関わらず、第一希望の企業(富士通)に内定をもらうことができたのは、毎日相談に乗ってアドバイスしてくれた先生方のおかげです。そばで支えてくれた友達のおかげです。

私はこの5年間で、共に泣き、笑う友達ことができました。いじりたくなる後輩がいて、頼りになる先輩がいました。優しく厳しく指導してくれた先生方や、温かく見守ってくれた家族には、たくさん迷惑をかけた。

私はもうすぐ卒業します。4月から社会人になります。みんなと離ればなれになってしまうのは寂しいけれど、繋がりが消えるわけではありません。新しい環境では、もっとたくさんの人たちと出会います。その一つ一つの出会いを大切に、前を向いて頑張っていこうと思います。

最後に、5年間に関わった多くの方々に、私をここまで成長させてくれたこと、支えてくれたことに感謝します。本当にありがとうございました。

卒業にあたって

メディア情報工学科



5年 比嘉 恵介

入学から早5年。いま、卒業を目の前にしてこの5年間を振り返ってみれば、本当に多くの経験、成長があった日々を過ごしてきたと思います。そしてその日々のほとんどが、ここ沖縄高専に来ていなければあり得なかった事ばかりであり、この5年間の多くの出会いや支えがあったからこそ、こうして卒業という日を迎えることができるのだと日々感じています。

この場所で出会った仲間として、共に課題やテストに追われ、共に寮で一夜を明かし(?)、共にふざけあった友達との思い出は一生忘れることのない充実した日々だったと思います。特に、個性溢れる、というか溢れすぎて收拾のつかない3期生メディアの一員としてこの5年間を過ごしたことが、何事にも代えがたい素晴らしい青春の日々でした。もしいま、中学時代に返ることが出来たとしても、私はまた沖縄高専へ入学する道を選びます。選ぶはずです。いや、選ぶかもしれません。

卒業するにあたって私がいま思うことは、周囲への感謝の気持ちです。高専へ入学したときから、まだまだ子供だった私を支えて応援してくれた家族、そして授業以外にも多くのアドバイスやチャンスをくださった先生方に心から深く感謝申し上げます。

私はこの春から、東京の大学へ3年次編入生として進学します。卒業後はみんな別々の道を進みますが、沖縄高専の卒業生として誇りを持ち、立派な社会人になれるように一層努力していきましょう。卒業後もみんなと会える日が来るのが楽しみです。また会いましょう! そのときは是非誘ってね。



5年 上原 真矢

「高専」という新しい学校ができる。中学生の頃に担任の先生から紹介されたときは気にも留めませんでした。中学卒業後は周りの友人と一緒に地元の普通高校へ進学する、そう考えていた私が高専に興味を持ったきっかけはオープンキャンパスでした。そこには最新の設備が整った環境があり、生き生きとした顔で説明を行う先輩方がいました。この学校へ来れば私も何か見つけられると思い高専へ入学したのですが、100分授業や寮生活など、初めのうちは周囲を取り巻く環境の変化に戸惑ってばかりでした。本当に私はこの学校で5年間やっていけるのか不安に思い、高専への進学を後悔したこともありました。

しかし、そんな不安をかき消してくれたのは、新しく出会った友人たちでした。わからないことがあれば教えあい議論を重ねることで、これまでいくつもの壁を乗り越えることができました。普段の何気ない会話で笑いあったこと、行事の際に衝突と結束を繰り返したことなど、今となってはどれも懐かしい思い出ですが、そうして深まった友人たちとの絆は、私が高専で得た大切な財産です。また、優しく温かな心で私たちを導いてくれた先生方、いつも私を応援し力強く支えてくれた家族の存在があったからこそ、頑張ることができました。私一人では、決してここまでこれなかったと思います。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

これから私は、社会人として歩いていくことになります。以前のように不安に駆られ、辛いと感じることもあると思いますが、沖縄高専の卒業生であることに誇りを持ち、今まで学んだことを胸に前へ進んでいきたいです。



5年 天久 朝恒

地元糸満市を離れ、はるか遠くの辺野古の山奥で過ごすこと早5年。忘れることのできない貴重で不思議な5年間となった。思い出を振り返ってみると、寮生活では、学習時間帯に友だちと歌を歌って先生に怒られたり、洗濯物と一緒に洗剤をベッドにぶちまけてしまったり、夜中にみんなでサッカーの試合を観たり。学校生活では、クラスマッチに全力を注いだり、高専祭に向けて一致団結したり、一日中受験勉強をしたり、朝まで宴会をしてみたり。

高専での生活を通して専門知識やスキルを身に付けた。考え方を学んだ。学び方を学んだ。そして数々の偉人・変人との出会い、語り合ったり、競い合ったりしながら多くの経験を積んだ。高専は先生も学生もいわゆる変人(とてもいい意味で)が非常に多かった。濃いだとか個性的だとか似たようなニュアンスの言葉は多くあるが、やはり「変人」という表現が一番しっくりくる。周りの人々は自分の世界をもち、マニアックなものを好み、我が道を通って行く人ばかりだった。みんなのことをすごく変態だと思ったし、すごく尊敬したりもした。一緒にいてすごく楽しかった。高専での「出会い」と「経験」は私の人生にとって大きな財産となった。

最後に、担任の三枝先生のおやじギャグや副担の三宮先生のスベらない話など、書きたいことはまだまだありますが、ここでは語りつくせないため省略させていただきます。三枝先生、三宮先生をはじめ、卒研担当で私の恩師である田邊先生、その他の先生方、先輩後輩、クラスメイト、支えてくださったすべての方々と両親への感謝の気持ちを込めて、この文章を書きました。ありがとうございました。それでは、また会いましょうさようなら。



5年 大濱 菜津子

沖縄本島から400km以上離れた石垣島から、ここ沖縄高専へ入学して早5年が過ぎようとしています。思い返してみると、なんだかんだと言いつつも本当に充実していた高専生活でした。

5年前の4月。新しい環境でたくさんの友達に囲まれて、楽しい毎日を送ろうと胸ときめかせていたわたし。しかし、そんなわたしを待ち受けていたのは思いがけない挫折の数々でした。地元では、スポーツも勉強もできるスーパーマン。でも、高専では勉強なんて出来て当たり前、席次も後ろから数えたほうが早く、スーパーマンだったわたしはすっかり自分に自信を無くし、小さくなってしまいました。そんなわたしが今笑っているのは、共に頑張ってくれた友達、本当に親身になって話を聞いてくれた先生方、励ましてくれた先輩や後輩、すべての人々のお陰です。

高専での生活は部活に勉強、課題やテストに追われる日々、一般高校生と比べると、決してバラ色な青春時代ではないのかも知れませんが。しかし1つ屋根の下、一緒にお風呂に入り、寮食を食べ、レポート作成に徹夜して、気がつけばパソコンのブラインドタッチなんてお手のもの、そんな高専生だからこそできるセピア色の青春時代もそれはそれでいいものでした。

卒業の日を間近に控えた今。人生のうちの5年間をここ沖縄高専で過ごせたこと、たくさんの素敵な仲間に出会えたこと、温かく応援してくれた家族、先生、みなさんに心から感謝の気持ちを伝えたいです。本当にありがとうございました。

生物資源工学科

学年の学生の様子

1 学年の様子

1 学年主任 青木 久美

入学当初は不安で一杯といった様子の1年生でした。クラスの雰囲気もぎこちないものでしたが、今では、1年生同士、互いに励まし合いながら勉学や課外活動に打ち込んでいる様子を伺うことができます。特に、初めての高専祭で、一致団結して頑張った経験は、学生ひとりひとりの自信に繋がるとともに、クラス全体にとっても大きな力となったようです。

そのいっぽうで、学年が終わりに近づくにつれて遅刻などが目立つようになってきたのはとても残念です。将来の夢の実現のためにも、入学当時の緊張感を忘れずに、努力を続けて頂きたいと思います。そして、社会に貢献できる人材として巣立ってほしいというのが我々教職員一同による願いです。1年生担任団は、これからも、陰日向となりながら彼らの成長を支えていく所存です。今後とも、保護者の方々の暖かいご支援とご協力を、よろしくお願い申し上げます。



高専祭



2 学年の様子

2 学年主任 成田 誠

2年生の学生生活も最終段階、本年度はインフルエンザの流行による混乱もなく無事授業・行事が行われたことは何よりです。後期に入ってから学生達の意識も専門課程に向きつつ、一方で混合学級の終了を惜んでいるようにも思えます。同一分野でクラスを構成することは、効果的な専門教育のためには避けて通ることはできないことですが、他(多)分野の人と交流を持つことの有意義性は棄て難いもので、それを学生達も実感しているのではないのでしょうか。15年前の就職協定の廃止及び現在の就職活動の厳しい状況からすれば、これで学生生活の半分が過ぎたこととなります。技術を取得し社会に貢献することが本分ではありますが、残る学生生活において学業以外にも多くのことを学び、一度しかない青春を謳歌してほしいと思います。

今年度は大きなイベントとして全国高等学校総合体育大会(インターハイ)の補助(ボランティア)がありました。それ自体の良し悪しはともあれ、これを機会に学生同士、または学生と教員とのコミュニケーションが多くかつ深くとることができるようになったことは良かったと思います。また、学外の社会や県外の高校生と接することで学生達の視野が広がったことも収穫だと考えています。

今年度の2年生は部活動や学生会活動に積極的に参加し、リーダーとして所属するチームを引っ張る学生が多く見られます。彼らのリーダーシップが今後の彼ら自身、更には沖縄高専の発展に寄与することを大いに期待します。



全国高等学校総合体育大会
(インターハイ)の補助(ボランティア)

3 学年の様子

3 学年主任 鈴木 大作

季節の移り変わりは早いもので、本年度も終盤にさしかかり、学内においても締めくくりの季節となりました。3年生も、高専生活の折り返し地点を過ぎ、後半の学生生活に向け新たな思いを抱きながらこの季節を迎えていることと思います。

3年生は、2年生までの学科混合のクラスから各学科別のクラスとなり、それまであまり話したことがない友人とも新しく親交を深めあうことができた一年ではなかったかと思えます。また、これまで一般科目中心であった授業も徐々に専門科目が増え、より高度な専門技術を学ぶことができた一年だったことと思えます。3年次の大きな行事の一つである研修旅行が、12月4日～7日の日程で行われました。東京を中心とした、学科ごとの関連する企業の視察や、グループ単位で企業や美術館、大学の施設見学などを行う自主研修など、学生たちにとって良き思い出となると共に、今後の就職や進学活動を行う際の手助けとなる良い経験になったことと思えます。

高専生が3年生から4年生になるこの時期は、一般の高校に進学した同世代の仲間たちにとっては、就職や大学等への進学など、それぞれ重要な節目となる時期になります。しかし、高専生にとっては差し迫ったものが感じにくいようで、ややもすると惰性に流されやすい時期でもあります。残されたこれからの学生生活では特に、一人ひとりの自覚の在り方によっても成長に差が出てくる事が予想されます。我々教職員としましても、学生一人一人の潜在能力を引き出ししっかりと成長できるように取り組んで参りたいと思えますので、皆様におかれましてもより一層のご支援を賜りますよう、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。



研修旅行での ANA 整備場見学の風景
(写真提供：メディア情報工学科3年 ヘンドラ・グントゥル)



「進路を考えるとき」

4 学年主任 山田 親稔

最近の4年生の会話では、就職や進学に関する内容が増えてきており、進路について真剣に考えている様子が伺える。そんな彼らも4月頃には、「リクルートスーツってどんなスーツですか?」、「ネクタイの締め方がわかりません」、「自己アピール文が書けません」などと言っており、一時は「本当に彼らは、インターンシップに参加し、就職活動を行うことができるのか」と、4年担任団で悩んだ時期もあった。そこで7月には、沖縄県キャリアセンターの講師をお招きし、ビジネスマナー講習として、着なれないスーツを着用し、言葉づかい、電話対応、履歴書の書き方についてのアドバイスを受ける機会を設け、インターンシップに参加するための事前研修を行った。

事前研修を終え、8月から9月の間、県内外の企業、大学、研究所等で約2週間のインターンシップに参加し、途中離脱する学生もなく、無事に全員が研修を終えることができた。事前に研修を行ったとはいえ、実際に受入先の企業等での研修に参加すると、これまで経験したことのないことばかりで、非常に良い刺激になったようである。10月に行われたインターンシップ報告会では、学生のほとんどの発表内容で、「これまでの働くというイメージを変えることができ、自分の考えが甘かった」という感想が多かった。

今後、さらに多くの企業や大学の説明会が開催され、いよいよ進路選択の「本番」を迎えようとしている。これまで十分に準備してきた学生、まだまだ準備が足りない学生など様々だと思うが、進路選択に迷ってしまった場合は、自分一人だけで悩まずに、同級生や先輩、教員や職員、そして両親と話すことも重要なことだと思う。そして、悔いの残らない進路選択となるよう、いま出来る最大限のことをやり遂げてほしいと願うばかりである。



学内合同企業説明会の模様

インターンシップ体験記

機械システム工学科



4年 普天間 翔汰

私は、糸満市西崎にある新糸満造船株式会社で2週間のインターンシップを体験しました。将来は船舶などの大きな物を作る仕事に携わりたいという思いから、以前より造船会社に興味を持っておりました。インターンシップは、造船会社の中から見るよい機会であり、また、興味ある技術を持った企業で実習したいと考えておりました。そのため、自ら企業を探し出し、直接電話で受け入れをお願いすることで、自分の希望する造船会社へインターンシップに行くことができました。

新糸満造船株式会社は、国内最大規模の「シンクロリフトシステム」と呼ばれる、船舶を海から地上へあげる(上架)設備を有している会社で、船舶の定期検査・修繕をおもな業務としています。そのため、県内で就航しているフェリーの多くは、わざわざ内地にある大きな造船所へ行くことなく定期検査を受けることができ、燃料・時間・人件費の節約に貢献しています。

インターンシップでは、出勤後まず従業員全員とのラジオ体操から始まります。その後、12時まで勤務し、1時間のお昼休み後、再び4時半まで勤務、5時までの30分でその日の報告書を作成し、提出します。内容としては、構内の機器点検による安全管理、船舶部品の清掃・組立・取り付け、廃棄物の処理作業、定期検査の立ち会いや洋上試運転の同行など、2週間を通し様々な作業を体験いたしました。とくに、機関室での部品取り付けは圧巻で、エンジンによる音や振動、熱などに加え、周囲を鉄の機械に囲まれているため、まるで異次元の世界で作業をしているように感じました。このような状況での作業でしたので、現場での作業員同士のコミュニケーションはとても重要であることを学びました。

インターンシップを体験したことで、就職に対する意識が格段に上がり向上心がわいてきたように感じています。この貴重な経験は、自身の成長の糧になると確信していますので、後輩の皆さんも、ぜひ、明確な目標を持って企業を探し、インターンシップに積極的に取り組んでください。



4年 知念 美怜

私は食品関係の会社への就職を志望していて、また、県外での就職を考えているので就職活動の一環としてインターンシップ先を検討しました。提示されたインターンシップ受入企業リストには、食品関係の企業が少なく、そのほとんどが県内であったり、受入条件に合わなかったりしたので、自分で企業を探すことにしました。複数の会社にお問い合わせしましたが、現実は厳しく、全ての会社に断られてしまいました。そのため、県内企業ではありますが、リストに掲載されている食品関係の「沖縄コカ・コーポラトリング株式会社」にお世話になることにしました。期間は1週間で夏休み期間中に行いました。食品関係の会社であるため、事前に健康診断などの検査を受けることが条件であり、衛生管理を徹底していると感じました。それは実習が始まってからも強く感じることでした。夏場の工場でもとても暑い中でしたが、実習中は長そで長ズボンの制服にマスクと帽子を着用し、消毒などをいたるところでおこないました。衝撃を受けたのは、工場内にはドアのぶがなく直接手で触れないようにセンサーでドアの開閉をしており、食品を扱うにはここまで徹底して管理しなければならないということを実感することができました。インターンシップの体験内容は主に製造ラインの見学で、製品ができるまでの一連の過程や製品に合わせた型替え作業などを間近に見ることができました。作業員の方は故障によりラインが止まらぬように常に機械に目を向けて働いており、気が抜けない仕事だなと感じました。休憩時には、卒業生の先輩との交流やたくさんのコカ・コーラ製品を頂くことができ、とてもよかったです。今回のインターンシップを通して、食品関係の仕事内容はどのようなものかを知ることができました。一方で製造ラインでは力作業が必要とされ、仕事内容はインターンシップに参加している他の男子学生とは違ったものであり、働く中で厳しい現状もあるということを実感することができるいい機会となりました。最後に、インターンシップを受け入れていただいた「沖縄コカ・コーポラトリング株式会社」の方々に感謝申し上げます。

情報通信システム工学科



4年 町田 宗丈

私はインターンシップの経験を、卒業後の進路決定に活かそうと考え、企業と研究所という異なる職種の2ヶ所の研修に参加しました。

まず、最初の研修先として、富士通(株)の6日間の研修に参加しました。そこでは、中心事業であるITソリューションについての講義を受け、その後、グループワークで実際の案件を基にした課題の解決案を提案し、さらに、その内容をコンペにより競うという、大変やりがいのある内容でした。研修期間中は、採用担当者の方や内定者の方々と交流を持つことができ、今後の就職活動の際に参考になる有益な時間を過ごすことができました。

次の研修先は、産業技術総合研究所の研修に参加しました。私が以前から興味を持っているニューロコミュニケーター(脳波を使用してコミュニケーションをとるツール)を開発した、ニューロテクノロジー研究グループにおいて2週間の研修を受けました。そこでは、最新の脳波の研究についての講義を受けた後、自分自身でプログラミングして、脳波を測定・分析するという実験を行いました。日々新しいことを学べ、とても充実した2週間でしたが、それと共に自分の勉強不足を実感させられた研修でもありました。

私はこれらの研修を通して、学びたいことや学ぶべきことが多くある事に気づき、あいまいだった卒業後の目標を、より具体的なものに変えることができました。今回の経験を活かしてこの目標を叶えたいと思います。



4年 大城 奈津紀

私は、佐賀県にある大和製罐株式会社九州工場で5日間の研修に参加しました。大和製罐は缶やペットボトルなどの容器を製造している会社で、市場に流通している缶の3本に1本がこの会社の製品です。

研修内容は、工場見学から始まり、製造ラインの各工程についての講義や実習を受けました。初日は、他高専からの研修生との顔合わせをして、主に会社概要や製造工程を説明して頂きました。2日目と3日目は大和エンジニアリングという部署に配属され、実習を行いました。2日目の実習は組立図を参照しながら、工場内で実際に使用されている検査機器の組立てを行いました。内容が若干機械系の分野で分からない事がたくさんありましたが、研修担当の社員の方が丁寧に教えてくれたので、無事に完成させることができました。3日目は、配線実習としてシーケンス制御の概要説明を受け、リレーを用いたインバータ配線を行いました。シーケンス制御は、3年の情報通信工学実験の内容で既に習っていたため、私も指導する側にまわり、より理解を深めることができました。また、工場内の機械が壊れて誤動作した時の解決方法を考え、授業で習った内容が活かせることができたため、全体を見渡しながら研修を行うことができ、そして、さらに勉強への意欲も湧いてきました。4日目は北九州市にある新戸畑工場を見学し、最終日は生産技術や品質管理について学びました。インターンシップに参加する前は、不安になったり、緊張したりで無事に乗り越えられるか心配でしたが、研修担当の社員の方々に積極的に質問をしたりすることで、話の輪が広がり仕事の話から趣味の話などいろいろなことを教えていただきました。また、今回のインターンシップでは、女子が一人ということで不安もありましたが、実習を通して他高専の研修生とも仲良くなることができ、5日間の研修があっという間に感じました。インターンシップでは、学校で体験できないことが多く学べ、今後に大いに役立つと思います。後輩の皆さんにもよく考えて真剣に取り組んでもらいたいと思います。そして、私もこの経験を活かして就職活動を頑張りたいと考えています。

インターンシップ体験記

メディア情報工学科



4年 大城 よしほ

私は、「イングデザイン研究所」と「回」というふたつの企業に、インターンシップでお世話になりました。どちらの企業も福岡県にある広告関係の企業で、それぞれの規模は2人、3人と小さな企業ですが、その分とてもアットホームな雰囲気でした。

イングデザイン研究所はコンサルティングを広告やデザインという手段を中心に行う企業で、その考え方や過去の事例についてのお話を聴きました。情報を発信することや、その情報をいかに分かりやすくするか、についてとても勉強になりました。また、お話を聞くだけでなく企業の広告で使うキャッチコピーの考案も手伝っていただきました。学校では学ぶことのできない、キャッチコピーをどのように生み出すのかの過程をのぞくことができたのはとても貴重な体験になりました。

回では包装紙の見本づくりや企画提案のための下調べ、打ち合わせへの同行等、たくさんの業務を体験させていただきました。特に打ち合わせ先へ同行させていただいたときのお客様の笑顔と「ありがとう」「楽しみ」といった言葉は印象的でした。この言葉をいただけるような社会人に、私もなりたいと思いました。

お忙しいにもかかわらず私を快く受け入れて下さったおかげで、それぞれの企業で違った体験をすることができました。インターンシップに至るまでの企業とのやりとりや、インターンシップ中の体験等を通して成長することが出来ました。インターンシップでの体験はもちろんのこと、インターンシップに関連することすべてが勉強になったので非常にいい経験になりました。



4年 末次 みなみ

私は、神奈川県にある「株式会社アニメトロニカ」という会社にお世話になりました。この会社では、アニメーション、イラスト、音楽などの製作を行っています。私は部活動でCG作品の製作に取り組んでおり、コンテンツ系の職業に興味を持っていたので、自己開拓でこの会社インターンシップの依頼をしました。

会社は、社員2名と小規模でしたが、そのおかげで業務内容や仕事の進め方など間近に見ることができました。また、実際にTV番組に起用されるアニメーションの製作に関わらせていただいたり、応用技術を教えていただくなど、短い期間で多くの経験をさせていただきましたと感じています。そして、実際にお仕事をさせていただいて、一番強く感じたことは、「自分の考えを伝える」ことの大切さでした。作品のアイデアを出す際に、互いのアイデアの良さ悪しをはっきりと言い、その解決策を考えていくことで、より良い作品ができるということが分かりました。これはどのような現場でも必要だと感じ、現在は自分の考えを伝えるよう心がけています。

また、当時私はこのような製作の現場で働くかどうかで迷っていたのですが、実際の現場にいる方からしか聞けない話を聞き、自分自身が今後どのようにして「製作」を続けていくかを考えるきっかけとなりました。

インターンシップは、自分の興味のある業界の現場に行けるチャンスなので、勇気を出して自己開拓をして良かったと感じています。最初は勇気が必要ですが、行動することで多くのことを得ることができ、そして新しい経験をするということは、非常に楽しいことだと実感できました。後輩の皆さんにも、自らの行動で多くの経験を得てほしいと思います。

生物資源工学科



4年 土田 永渡

私のインターンシップを振り返ると、これまでにないユニークな体験だったと実感しています。お世話になったインターンシップ先の、沖縄県農業研究センター名護支所は名護市の高台に位置し、農業全般に亘る研究を一度に拝見することができました。

農業は天候の影響を強く受けていることを改めて思い知らされました。インターンシップ初日には、前日まで暴風と大雨をもたらした台風で荒れた畑や倒れた木の片付けを行いました。また、3日目にも台風が接近してきているということで、ビニールハウスの補強作業を行い、沖縄の農業に特有の業務を実習できました。台風の後には日中の炎天下での作業を行い、またゲリラ豪雨のために農作業を中断、変更するなどの農作業の厳しさを、肌で感じるすることができました。

研究面では地道な作業が、後の成果に生かされてくることを実感しました。センターの研究内容は、主に「より多く・大きく・美しく・おいしい果実を得るための研究」と「生命力の強い雑草や病原菌、ウイルスをどうすれば防除できるかという研究」にまとめることができると思います。取り扱っている作物は、パイン、マンゴー、パッションフルーツ、温州ミカン、タンカン、シークワサー、米、茶など広く、果樹への水やりから、食味試験、糖度測定、精米・製茶作業など幅広く体験させていただきました。また、畑から雑草を取り除き、種別ごとに分けて数を調べる作業では、私に忍耐力をつけさせてくれました。

また、研究員の方々からも進路など多くのアドバイスを頂き、今回のインターンシップで得たものを今後も生かしていきたいと思っています。インターンシップは自身を見つめ直す機会を与え、また異なる価値観を深く理解できるよい機会です。後輩の皆さんにもインターンシップを全力で取り組み、自身と異なる価値観をつかんで欲しいものと考えます。



4年 島袋 今日子

私は兼ねてから人気商品を多く扱っている資生堂に憧れを持ち、就職先を選択する際の参考にしたいと考え神奈川県にある 資生堂 でのインターンシップを希望しました。

研修は、工場内にあるすべてのセクションの仕事について、10日間に至り実習を行いました。インターンシップの前半は、個々の製品についてモノづくりの流れを把握するため、化粧水を製造したり、製品の箱詰め作業を行いました。また、製品開発の実習では、口紅の色を調合する体験をさせていただきました。後半はモノづくりをサポートする工場全体の流れを学ぶため、製品の品質管理などの業務の指導を受けました。製造現場や食堂などには、スローガンの「良い品を良い人で」が掲げられていたのが印象的で、お客様を常に意識して働いていることが直に伝わりました。また、責任をもって製品に関わることで質の高い製品を市場へ送り出していることを強く感じました。研修を通して私が専門で学んでいる化学や微生物学が基本となっていることも感じ取り、学生生活での学ぶ意識が一層高まりました。

今回、実際に現場で働く方々からいろんなお話を聞くこともでき、インターネットのみでは得られない生の情報を得ることができ、有意義な研修を送ることができました。この経験を、今後の就職活動に活かしていきたいと思っています。



就職・進学状況

沖縄高専では、平成23年3月に本科第3期生176名が卒業する予定であり、そのうち79名が進学、97名が就職を希望しています。また、専攻科第1期生27名が修了する予定であり、そのうち12名が進学、15名が就職を希望しています。本科生および専攻科生の進路決定状況は下記のとおりです。

◇本科第3期生の進路決定状況

H23年2月現在

		機械	情報	メディア	生物	合計
卒業予定者		44	45	48	39	176
進学 内定状況	進学希望者	16	20	16	27	79
	合格者数※1	16	20	15	27	78
	うち3年次編入等進学	9	13	11	20	53
	うち専攻科合格	7	7	4	7	25
	進学決定率 (合格者数/進学希望者数)	100.0%	100.0%	93.8%	100.0%	98.7%
	進学先※2	九州工業大学(2) 千葉大学 長岡技術科学大学(2) 琉球大学(4)	九州工業大学(2) 九州大学 熊本大学 電気通信大学(2) 豊橋技術科学大学 山梨大学 琉球大学(5)	九州工業大学 九州大学 千葉大学 電気通信大学 東京農工大学 長岡技術科学大学(2) 日本デザイナー学院 琉球大学(3)	茨城大学 愛媛大学 お茶の水女子大学 帯広畜産大学 神戸大学 佐賀大学(3) 静岡大学(2) 筑波大学(2) 東京工業大学 豊橋技術科学大学 長岡技術科学大学 弘前大学 琉球大学(4)	
就職希望者数		28	25	32	12	97
内定学生数※1		27	23	23	10	83
内定率 (内定学生数/就職希望者数)		96.4%	92.0%	71.9%	83.3%	85.6%
就職 内定状況	内定先企業名(県内) 県内に本社のある企業	沖縄瓦斯 沖縄電力 開邦工業 JA 沖縄 ベアック沖縄(2)	沖縄テクノス 沖縄電機(2) 沖縄日立ネットワークシステムズ C&C 沖縄 サムズインターナショナル	インデックス沖縄 ODNソリューション 沖縄日立ネットワークシステムズ 沖縄富士通システムエンジニアリング クオリサイトテクノロジーズ 創和ビジネス・マシンズ ユニテック レキサス	EM 研究機構 沖縄環境科学センター 瑞穂酒造	
		内定学生6名 内定者に占める割合 22%	内定学生6名 内定者に占める割合 26%	内定学生8名 内定者に占める割合 35%	内定学生3名 内定者に占める割合 30%	内定学生23名 内定者に占める割合 28%
	内定先企業名(県外)	IHI エスクープ ANA フライトラインテクノクス 大阪ガス カンメタエンジニアリング 京セラ川内工場 三洋化成工業 新日本製鐵 中部電力 DIC 東京電力 東芝エレベーター ニコン 富士工業 富士重工 富士電機システムズ 三重金属工業 三菱重工業広島研究所 三菱重工業神戸研究所 ムラテック CCS メルコ ワタミ	大阪ガス(2) 関西電力 CRC システムズ(2) JR 東海 ジェイエムエンジニアリング 新日本製鐵 セイコーインスツル ダイキン(2) 東京エレクトロン FE 日本オーチス・エレベーター 富士通 富士電機システムズ 三菱電機システムサービス ハンモック	アイエックス・ナレッジ アイフォーコム 安藤証券 出光興産徳山精油所 NTT ネオメイト 協和エクシオ(2) 神戸テクノス コベルシステム Jetrun テクノロジ トヨタコミュニケーションシステム 日立アドバンスデジタル 富士通アドバンスソリューションズ 三菱電機システムサービス レベルファイブ	花王 サントリープロダクツ 第一三共プロファーマ 日本特殊研砥(2) 日本乳化剤	
		内定学生21名 内定者に占める割合 78%	内定学生17名 内定者に占める割合 74%	内定学生15名 内定者に占める割合 65%	内定学生7名 内定者に占める割合 70%	内定学生60名 内定者に占める割合 72%
求人数※3 (求人票の送付のあった企業の数)		239	221	192	137	789

※1 確定した進学先ではなく、合格した進学先を記載していますので、合格者数と内定者数の和が卒業予定者数にならない場合があります。

※2 同一企業から複数名の学生が内定を受けた場合、または同一の進学先に複数名の学生が合格した場合、その合格数をかっこ()内に示しています。

※3 求人票については、学科指定のある場合はその学科にカウント、学科不問の場合はすべての学科にカウントしています。

【求人票提出企業】 県内企業 34社 県外企業 229社

就職・進学状況

◇専攻科第1期生の進路決定状況

H23年2月現在

		機械	電子通信	情報	生物	合計	
修了予定者		5	8	5	9	27	
進学 内定状況	進学希望者	0	5	3	4	12	
	合格者数※1	0	5	3	3	11	
	うち大学院等進学	0	5	3	3	11	
	進学決定率 (合格者数 / 進学希望者数)	0.0%	100.0%	100.0%	75.0%	91.7%	
	進学先※2		静岡大学大学院 東京工業大学大学院 豊橋技術科学大学大学院 奈良先端科学技術 大学院大学 北陸先端科学技術 大学院大学	電気通信大学大学院 豊橋技術科学大学大学院 奈良先端科学技術 大学院大学	信州大学大学院 名古屋大学大学院 新潟大学大学院		
就職 内定状況	就職希望者数	5	3	2	5	15	
	内定学生数※1	5	3	2	4	14	
	内定率 (内定学生数 / 就職希望者数)	100.0%	100.0%	100.0%	80.0%	93.3%	
	内定先企業名(県内) 県内に本社のある企業	ベアック沖縄			沖縄テクノス	沖縄製粉	
		内定学生 1名 内定者に占める割合 20%	内定学生 0名 内定者に占める割合 0%	内定学生 1名 内定者に占める割合 50%	内定学生 1名 内定者に占める割合 25%	内定学生 3名 内定者に占める割合 9%	
	内定先企業名(県外)	アイシン精機 日陽エンジニアリング 日本精工 新潟原動機	アイシン精機 旭化成 東京エレクトロン FE	東通企画	資生堂(2) サントリープロダクツ		
内定学生 4名 内定者に占める割合 80%		内定学生 3名 内定者に占める割合 100%	内定学生 1名 内定者に占める割合 50%	内定学生 3名 内定者に占める割合 75%	内定学生 11名 内定者に占める割合 91%		
求人数※3 (求人票の送付のあった企業の数)	113						

※1 確定した進学先ではなく、合格した進学先を記載していますので、合格者数と内定者数の和が卒業予定者数にならない場合があります。

※2 同一企業から複数名の学生が内定を受けた場合、または同一の進学先に複数名の学生が合格した場合、その合格数をかっこ()内に示しています。

※3 求人票については、専攻科指定のある場合はカウントしています。

【求人票提出企業】 県内企業 9社 県外企業 104社

修了生へ送る言葉



専攻科長
知念 幸勇

専攻科の第1期生みなさん、専攻科修了おめでとうございます。専攻科1期生は本科の入学時から何とも初めての経験を経ながら沖縄高専で設置している教育課程を全て修了しました。先輩がいなかったため教職員とともに全てが手探りの連続でした。特に、専攻科設置が入学の2ヶ月前に認可されるという網渡り的な状況でも、28名という多くの学生が専攻科設置を信じて入学にこぎ着けたことは沖縄高専専攻科の歴史で語り継がれると思います。過去の他高専での初年度の本科からの入学者はほとんどが0です。

専攻科は本科と違い、より高度な専門的知識と技術及び研究能力を教授する大学と同じ学士課程です。つい本科の6、7年生と思われがちですが、高専のキャンパスに大学生が居ることと同じです。しかも、その教育課程には、大学院修士課程と同水準の高い専門技術教育が含まれており、特別研究では大学院の修士レベルの研究を行います。沖縄高専特別研究論文集創刊号には皆さんの研究成果が掲載されており、その内容は大学院相当と言っても過言ではないことを証明しています。3年

次編入で大学に進学した同期生は特別研究論文と同じ研究にこれから取り組むことを考えた場合、皆さんの先進性と進路選択が間違っていないことを示しています。

専攻科生にとって最大の課題である大学評価・学位授与機構からの学位取得も初めての経験で、他高専の応援も頂きながら、入学時から対策に取り組んできました。夏休みはほとんど学修成果レポートの作成に費やしたと思います。小論文試験では全員が一緒に福岡に行き、それぞれの学修成果レポートに基づいて学位審査会が作成した問題に挑みました。この原稿執筆時には結果は出ていませんが、全員が合格していることを祈ります。

本科生と専攻科生との大きな違い何かと言われると、専攻科生は自己管理、自学自習能力が備わっているのではないかと考えます。授業科目は全てが学修単位ですので、教室に居る時間が本科生の約半分です。残りの時間の活用は自己管理に任せられます。この自由な時間を2年間自己研鑽のために費やした学生は、おそらく社会に出ても様々な分野で自学自習能力を生かして活躍していけると思います。

幸い、就職率・進学率も100%に近い結果となり、今後、皆さんは大学院・企業に進みます。多くの企業アンケートで専攻科生は大学生以上と評価されています。これからは大学院生との比較になるかと思えます。活躍を期待しています。

修了にあたって



創造システム工学専攻

機械システム工学コース 2年 宜野座 海里

1期生として沖縄高専に入学して7年が経過し、小学校の6年間よりも長い期間をここで過ごしました。入学当初に比べると学校やその周辺の環境も大きく変化していき、非常に過ごしやすくなりました。入学して5年で卒業となり大学、専攻科、就職など進路はそれぞれあり、私は専攻科に進学してさらに2年間ここで学生生活を送りました。他の友達はほとんどが県外への進学、就職となり沖縄を飛び立っていきました。

専攻科は4学科合わせても28人となり少数で、機械科に関しては私を含め5人となりました。36人いた頃比べると授業や休憩時間が少し物足りない感じがしました。専攻科は4学科全てが同じ教室となっており、他学科のあまり接点がなかった人とも接する機会が多くなり、仲を深めることができました。本科に比べ授業数が少ない専攻科ですが、本科に劣らない課題の多さで大変苦労しました。また、2年になると学位試験というものがあり10月に学習成果レポートの提出、12月に提出したレポートの内容に関するテストを福岡で受験しました。この学位試験が沖縄高専7年間で最も緊張した瞬間でした。あとは学校の授業や研究をこなしながら、学位試験の結果を待つだけとなりました。

私は県外への就職が決まっています、専攻科が最後の学生生活となります。高専での生活は非常に楽しく、7年間がすぐ過ぎ去って行ったように思います。沖縄での生活も最後になるため、今いる仲間とたくさん思い出を作っていきたいです。また、今までお世話になった人たちに、感謝の言葉を伝えたいと思います。本当にありがとうございました。



創造システム工学専攻

電子通信システム工学コース 2年 伊波 慧

本科を卒業してもう2年が経とうとしている。とても長く、とても短い2年であった。楽しかったこと、つらかったこと、非常にいろいろなことがあった。これらを専攻科生活のシメとして振り返ってみようと思う。

専攻科になると各コース5~9人の少人数となり、専攻科1学年では30人を下回る。その中で、徐々に他コースとの関わりが強くなっていった。本科のときにはあまり親しくなかった人とも今では心を許せる親友だ。1年のときには、本科とは違うスカスカの時間割に驚かされた。しかし授業ともなると授業のたびにレポートや課題が課された。研究の面では、学会発表に数回行く機会があり、その準備のために学校に夜遅くまで残ることも多くなった。1年の後期からは専攻科修了後の進路について考え始め、大学院進学を決意した。この頃から、周囲でも就職活動や院試対策が活発になったように思う。

2年は全力で走り抜けた。いつでも目の前の課題に全力だった。院試をはじめ、授業の課題、テスト、研究、研究発表、学位試験、etc...。幾多の試練が次々と襲い掛かってきた。専攻科での一番の山は学位試験という問題ないだろう。10月には学修成果レポートという研究をまとめたレポートを提出し、12月にそのレポートに対する小論文試験が課される。2年の後期はほぼそれ一辺倒だった。そして学位試験も無事終わり、後は結果を待つだけの1月からの専攻科生活。今までよく頑張ったなあと思いつつもそれだけでは終わらないのが高専クオリティ。研究論文集のための論文作成、研究最終発表、専攻科修了研究論文、学会でのプレゼン資料作成など研究に関連することまじながら、授業の課題も容赦なく襲い掛かってくる。あともう少し頑張らねば。

さて、ここまでの私が専攻科生活を走り抜けることができたことは、これらの苦楽をともにできる親友がいたことだと思う。同じ専攻科に所属している親友、別の大学へ行ってそこで頑張っている親友、就職して毎日世間の荒波に揉まれている親友。さまざまな親友がいることが私の財産だ。来年度も新しい生活で新しい仲間を見つけることだろう。

私は今日も走る。これからはじまる輝かしい未来に向かって。



創造システム工学専攻

情報工学コース 2年 安里 梓

コメントを書くにあたり、学生生活を振り返ってみたのですが、あまりにも想い出が濃すぎて、何から反省したらいいのかよくわかりません。

7年前の入学式の日、慣れないスーツ姿の私は15歳でした。その頃から、漠然と映像作家になりたいという夢がありました。22歳になった今、4月から東京の番組制作会社での勤務が始まります。7年間紆余曲折しましたが、沖縄高専で学び、悩み、人と出会い、自分自身と向かい合った結果、夢のスタート地点に立つことができています。「高専の学生」という道以外もありましたが、それでも今私は、この学校で学べたことを心から良かったなと思っています。

現在、4月からの新しい生活を想像しては一人でもニヤニヤする毎日です。一体どんな番組に携われるのだろうか、どんな人と出会えるのだろうか、初任給がたらお世話になった方々へのお礼には何が嬉しいのだろうかなど、ネタが尽きることはありません。色々慣れるまで大変でしょうが、日本全国どこへ行っても、共に学び家族のような絆で繋がった沖縄高専のメンバーがいます。不安はありません。

誰よりもワクワクして4月を待っている自信があります。だから、学生生活を振り返りながらこのコメントを書いていて、卒業するのがちょっぴり寂しかったのは、たぶん気のせいです。



創造システム工学専攻

生物資源工学コース 2年 中本 千尋

理科が好き、実験が沢山できる、そんな軽い動機で入学して早7年。小学校より長い高専生活、私の心身の成長はこの学校とともにありました。

専攻科を選択した理由は、5年生の卒業研究を継続し、大学院進学に繋げるためでした。しかし、特別研究では必ずしも納得のいく研究結果は得られませんでした。データが安定しない、再現性がとれない、予想外の結果が出る など試行錯誤の日々が続きました。自分で調べ、選んだテーマだからこそ、最終判断は自分なのですが、その考え方でよかったのか、実験手法はこれでいいのかなど常に不安がつきまとっていました。答えは結局見つからないままですが、考えるプロセスが大切だったと今なら思えます。自分で考え、実行する中で、論文を読むための英語力や、実験技術、専門知識などが得られたのでしょうか。そして、研究や将来について逡巡し、落ち込んだ時に、先生や友達にももらったアドバイスや励ましの言葉は私の心の支えになっています。

もし、自分の中に入り込んで悶々としてしまったら、時には外に出ることも重要です。インターンシップやセミナーなどに参加し、色々な人と話をすることで、視野が広がりがモチベーションの向上に繋がると思います。

4月からは、初めての県外での一人暮らし、新しい学校生活が待っています。今では、同級生が全国各地で頑張っているの、心強い限りです。まずは、今年2度目の桜を見ながら、お花見がしたいな♪

創造力

高専祭



第6回高専祭実行委員長
生物資源工学科 4年 天久 隆貴

こんにちは、第6回高専祭実行委員長を務めました、生物資源工学科4年の天久隆貴です。

沖縄高専では、昨年11月13・14日に第6回高専祭が開催されました。今年度の高専祭のテーマは「創造力」となっておりました。「創造」という言葉には、新しいものを産み出すこと という意味があります。高専祭という行事を通じて、世界に羽ばたくことを目指す私達高専生が、新たなものにチャレンジして道を切り開いていくという姿勢、クラスとして一つの企画を創り上げていく中で一人一人が「創造」していく力を身につけて欲しい、そういった願いをこのテーマに込めました。

高専祭当日を迎えるまでの過程においては、台風の影響で直前になって高専祭の日程が変更になるなど、数多くの「壁」が私達の前に立ちはだかりました。しかし、困難に見えていたその壁を乗り越えて高専祭を成功のうちに終わられたのは、決して私達実行委員の力だけでなく、学生の皆さんや教職員をはじめとする事務の方々との結束、含めては、スポンサーとして高専祭の運営にご協力して下さいました企業の方々、ならびに辺野古地区の方々の多大なご支援あつてのものだと思います。多くの方々の、目に見えない大なる力に支えられて高専祭を成し遂げることができたことを、心より嬉しく思っております。高専祭に携わってくれた全ての方々にお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

私自身、高専祭実行委員長という役職を通して、様々なことを学ぶことができ、非常に良い経験をさせて頂くことができました。実行委員の仲間と共に頑張ってきたこの半年間をとて誇りに思っております。

最後に、私達学生を温かく見守り、高専祭を大いに盛り上げて下さった、来場者の方々に心より感謝申し上げます。来年度以降においても、後輩達を中心となり、今年度以上に見ごたえのある高専祭を開催してくれると思いますので、今後とも沖縄高専の高専祭にご来場下さり、温かく見守って頂ければ幸いです。



ロボコン九州大会に出場して

ロボット製作委員会Aチーム 情報通信システム工学科 3年 富永歩



ロボコン



ロボコン



ロボコン



私は中学校3年生の頃、高校の志望動機に「ロボットコンテストに出場するため」と書きました。それは高専が開校される前、私が小学校の時に開校の話聞いた小学生の頃からの夢でした。

前年度、2009年九州沖縄地区大会において、私はAチームの操縦者として出場し、地区大会優勝を果たすことができました。あの時の夢が叶った瞬間は、なにものにも代えがたいものでした。

そして2010年、私がBチームのチームリーダーとしてロボコンが始まり、新しい後輩と今年で引退する先輩たちとの間で、リーダーとして重大な責任を感じ、みんなを引っ張っていくことを決意しました。この年までに、沖縄高専は地区大会2連覇と全国大会優勝を果たしています。中堅学年である私は、そんな押しつぶされそうなプレッシャーを感じ、シーズン中は安心して眠ることができない日もありました。特にチーム内での関係悪化を改善するのが特に大変で、先輩と言ひ合いを起すこともありました。

残り時間が少ない中、睡眠時間を削り、四苦八苦しながらみんなで作り上げたロボットがきちんと動作したときは、本当にうれしく、チーム全員で喜び合いました。やはり、大会に参加することも大事ですが、そのために一致団結し、メンバー全員で一つの作品を作り上げ、きちんと動作した瞬間の感動が私は大好きです。

ロボコン2010では、私達は残念ながらベスト8で敗退し、全国大会への出場は叶いませんでした。偉大な先輩方が残してくれたものを、私たちは受け継ぐことができず今シーズンが終わりました。その時は、もちろんとても悲しくて、残念な気持ちでいっぱいでしたが、それとともに来年度へ向けての大きな目標もできました。それはもちろん全国優勝ですが、今年とは少し違い、「かけがえない仲間たちと共につかむ全国優勝」としています。

2011年、私は部長になります。今の夢として、中学の時とは違い、「後輩たちに沖縄高専ロボコン部を継いでいく」を掲げ、全身全霊で製作活動に取り組んでいきたいと思っています。今年達成できなかったことを、来年こそは成し遂げられるよう、さらなる高みへメンバー全員と頑張っていきたいと思っています。

MDDロボットチャレンジ大会に出場して

メディア情報工学科 5年 島袋 誠也

MDD
ロボットチャレンジ
2011



沖縄高専MDDロボットチャレンジチーム The Goships は、2010年10月27・28日に東京の国立オリンピック記念青少年総合センターで開催されたMDDロボットチャレンジ2011に出場しました。

MDDロボットチャレンジ大会は、情報技術やソフトウェア開発に関する教育と研究を目的として小型飛行船を題材に行われる飛行船コンテストで、全国の企業や大学生・大学院生が参加する大会です。この大会では飛行船のハードウェア及びソフトウェアに各々のチームで製作・改造を施し、指定された航路を人間が操作することなく自動で飛行させて点数を争います。企業や大学院生など17チームが参加する中、沖縄高専チームが「飛行競技部門」と「相撲競技部門」の2部門からそれぞれ「準優勝」を受賞しました。

私たちのチームの特徴は飛行船にカメラを搭載し、QRコードをリアルタイムで認識しながら立ち寄り点やゴールを探索するというもので、斬新なアイデアと技術の高さで会場を驚かせました。これも偏に日頃ご指導いただいているタスリヤボン スリヨン先生をはじめとする先生方のおかげだと思います。

メンバーそれぞれが進学・就職活動やインターンシップ、卒業研究などで忙しいなか、夏から一生懸命取り組んでいたことが今回の成果に繋がったのではないかと思います。

去年の飛行競技奨励賞に続き、受賞することができたことは大変嬉しく、今後の学生活動への大きな自信となりました。これに満足せず、日々邁進していきたいと思っています。



MDD ロボコン



MDD ロボコン



MDD ロボコン

Tennis



今回、九州・沖縄地区の高専大会にて、団体戦において準優勝を収めることができ、男子としては初めて全国大会に出場することができました。

地区大会では、準決勝で昨年準優勝校の大分高専を破り、全国大会の切符を手にすることが出来ました。しかし、決勝では強豪の鹿児島高専と対戦しましたが、惨敗を期しました。悔しさを糧にして全国大会に向けて練習を始めました。全国大会の日程が期末試験直後という中で、十分な練習時間を確保することは困難でしたが、普段接する事のない外部の方との練習試合も行うことができ、短期間ながらも実力を伸ばすことが出来ました。

全国大会一回戦は大阪高専と対戦しました。団体戦はシングルス2つとダブルス1つで行われました。私達は、シングルス2は勝つことが出来ましたが、シングルス1とダブルスで負けてしまい、初戦突破はなりません。他高専と違うところは、技術力もそうですが、一番は気持ちの持ち方だと感じました。テニスは個人競技ですが、団体戦においても一人ひとりが全員で勝つという気持ちは、他高専の方が強いと感じました。

来年も全国大会に出場し勝利を収めることを目標に、これからの練習を頑張っていきたいと思います。

最後に、全国大会派遣に伴い資金造成の寄付等支えてくださった保護者の皆様ならびに教職員の皆様、心より感謝申し上げます。



硬式テニス男子集合写真



硬式テニス女子集合写真



九州大会での試合模様

男子硬式テニス部全国大会に出場して

情報通信システム工学科 4年 糸数 大紀



サッカー部は現在、1,2年合わせて17名います。しかし、今大会に臨むにあたって様々な苦労がありました。

今大会は1,2年にとって新チームになって初めての大会ということもあり、気合いを入れて練習に励んでいました。しかし、高専祭の準備などで放課後の練習時間が削られたり、人数が少なく、いつも多くても12,3人で練習していました。

その中でも、わずかな練習時間を大切に、みんなで指摘しあい、お互いを高めあって練習に励みました。みんなでいい結果を残したいという気持ちから、苦しい中でも頑張っていました。

初戦の名護高校との試合では、練習時間が足りなかったことから、連係不足などを露呈し、0-5という結果で大敗を喫しました。正直ここまで大差がつくと思っていなかったもので、ショックでした。

続く名護商工との試合では、2-1で勝利し、結果としては1勝1敗で準優勝になりました。

しかし、初戦の大敗と実質2軍の名護商工相手に自分たちのサッカーが出来なかったこともあり、大会後の全員の表情に笑顔はなく、悔しさがにじみ出ていました。

この悔しさをばねに、全員で気持ちを入れて、これからの練習に励み、少しでも上のチームに近づけるように頑張っていきたいです。



北部支部新人サッカー競技大会の校長報告

北部支部新人サッカー競技大会に参加して

機械システム工学科 2年 伊佐 真奎

Soccer

JSEC2010に参加して

情報通信システム工学科 3年 長嶺 真実



JSEC2010



JSEC2010 参加集合写真



JSEC2010 交流会



足音の分析に関する研究は、昨年度JSECに参加した先輩方から引き継いだもので、2年生と協力して研究を進めてきました。

予選は書類審査のみで行われますが、測定データが不足していたので、予選を通過したと聞いたときはとても驚いたことを覚えています。最終審査に出場するにあたり、予選のときよりも充実した内容にしなければ、ということで測定方法を改善し、一から測定をやり直すことにしました。予選通過から最終審査までは期間が短く、テストや研修旅行も重なっていたので大変でしたが、予選を通過したということでチーム全体のモチベーションが上がっていたので積極的に研究を進めることができました。

足音という身近なものに着目しているという点では良い評価を頂きましたが、高精度の個人認証まではたどりつけなかったのでJSECの最終審査で賞をとることはできませんでした。しかし、全国規模の大きな大会に出場したのは初めてだったので、良い経験となったと思います。大会終了後には出場者の交流会もあり、他のチームと話し合う機会もありました。また、今回の研究を通して、チームワークの大切さを学びました。協力して作業を進めていくうちに、個人の役割をきちんと果たせるようになり、チームワークがまとまってくるのを体感するのはとても嬉しいものです。

JSEC2010

12月11日、12日に日本科学未来館において「Japan Science & Engineering Challenge 2010」(通称JSEC2010)の最終審査会が開催されました。JSECは自由研究の全国大会で、100を超える研究の中から30チームが最終審査に進むことができます。

沖縄高専から情報通信システム工学科の長嶺真実、照屋未来、新垣円の3名によるチームが参加し、「無線を用いた歩行場所と歩行パターン分析の研究」というタイトルで研究の発表を行いました。

内容は、センサや無線通信機器を用いて、歩いている場所や歩き方による足音の変化について研究したものです。歩行場所や歩行パターンによって足音の波形に変化が見られたことから、足音による個人認証への応用が期待されています。

英語スピーチコンテストへ参加して

メディア情報工学科 5年 大城 大



賞状



全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト



私は昨年(2009年)の8月28日に行われた九州地区高専英語スピーチコンテスト、今年の1月29日に行われた全国英語プレゼンテーションコンテストスピーチの部に参加しました。沖縄高専は初出場だったのですが、九州地区では優勝することができました。しかし全国大会では全国のレベルの高さを思い知らされる結果となってしまいました。引き込まれるスピーチ、ダイナミックで飽きのこないプレゼンを体感しました。ところで、私は2学年、3学年のころはやんばる地区スピーチコンテストに出場していました。スピーチコンテストは毎年、必ず定期テスト等と重なります。あいている時間をみつけスピーチの練習をしてきました。スピーチを始めたころはネイティブの発音にあこがれてシャドーイングばかりしていました。シャドーイングはながら作業ができるため、4年間以上、ほぼ毎日継続していました。しかし全国大会を終えて気づかされたことがありました。英語は、発音でもTOEICの点数でもありません。英語は道具なので極める必要はありません。人に自分の意志をいかにうまく伝え、訴えることができるかの能力が一番大切です。沖縄高専の英語の授業でも、スピーチまたはプレゼンを取り入れて欲しいと思います。スピーチだけに言えることではないですが、何事も限界は存在しないです。上はいくらでもいます。10代



全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト 記念写真

後半の多感な時期、様々なことを経験してほしいと思います。5年間辺野古に閉じこもった生活はもったいないです。最後に、4年間もスピーチの面倒を見てくださった名嘉山先生、ありがとうございました。



地域連携事業

沖縄高専では、地域共同テクノセンターを窓口として、地域社会との連携・交流の推進や教育研究の充実ならびに人材育成に取り組んでいます。名護市と浦添市との間で産業振興や人材育成等を目的として連携に関する協定を締結し、また、県立桜野特別支援学校と教育現場で必要とされる装置・教材等の検討・開発の連携協定を進めるなど今後とも連携推進への協力を行っています。事業として、沖縄高専施設見学会（本学）、沖縄高専フォーラム（那覇市）、沖縄高専北部地域産学連携フォーラム（名護市）を各地で開催し、産業界との交流を図り、また、3D-CADの各種講習会の開催、地域イベント（産業まつり等）への参加を通して、沖縄高専の教育研究を地域へ発信しております。

理科教育支援として、本島および離島地域の小中学校等への出前授業を積極的に実施し、ものづくりの面白さと科学への興味をもってもらおうお手伝いも行っております。



沖縄の産業まつり



本校での出前授業



沖縄高専フォーラム



第20回九州沖縄地区高専フォーラム



こども科学教室（沖縄の産業まつり）



施設見学・公開実験

学生会より



学生会 会長
情報通信システム工学科4年
上原 大輝

ご無沙汰しております。今年度学生会長を務めさせていただきます情報通信システム工学科 4年の上原大輝です。

今年度の学生会の活動として4月の新入生歓迎会に始まり、地域清掃やクラスマッチ、ツーデーマーチへの参加など、これまで継続してきた行事に加え、七夕祭、もちつき大会など新たな行事の開催にも力を入れてまいりました。また、高専祭では、予期せぬ事態にも柔軟に対応し無事成功のうちの終えることができました。これも、ひとえに学生全員が一丸となって協力し合った賜物ではないでしょうか。

さて、間もなく別れの季節がやってまいります。学生会として去りゆく卒業生の方々が沖縄高専での学生生活を良き思い出として締めくくれるよう卒業企画の準備を進めております。同時に、新入生の受け入れについても共に充実した学生生活を送れるよう準備を進めており、新たな仲間との出会いに胸をふくらませております。私の任期も残すところあとわずかですが、今年度得られた経験や他高専との交流会を通して得られた学びを糧に、今後益々学生生活を充実させる一助となれるよう、現学生会一同最後まで努力していく所存です。

結びに、執行委員会メンバーをはじめ1年間私に協力してくださった全ての方々に厚く御礼申し上げます。



▲辺野古区地域清掃



▲七夕祭

学生会の主な行事

5月	学生会議会
6月	地域清掃
7月	高専大会推戴式
7月	七夕祭
10月	クラスマッチ
11月	校内清掃
11月	高専祭
12月	ツーデーマーチ
1月	九州高専交流会
3月	卒業式二部式

寮生会より



学生寮 男子副寮長
生物資源工学科3年
玉城 祐貴

こんにちは、学生寮の男子副寮長を務めています3年生生物資源工学科の玉城祐貴と申します。

さて平成22年度もあと1カ月で終わりを迎え、来る4月からはまた新しい学期がスタートします。今年度も私たち寮生会では様々なことに取り組んで参りました。特に、後期の冬の寮祭は全員参加で行われ、忙しい高専生にとって楽しい思い出となったことでしょう。また、毎月の寮内大清掃により寮生一丸となって住みやすい寮・きれいな寮を目指しております。振り返ってみると様々なことに取り組んでいますが、その一つ一つに全力でかつ寮生会を中心とした寮生全体の協力があって、初めて無事に全ての行事を成功におさめることができたのだと思っております。

数々の取り組みの中でも今年度は特に他高専の寮生会との交流に力を入れてきました。夏休みに沼津高専の視察に寮生代表として行かせて頂いたのですが、やはり新設の沖縄高専とは違って基盤がしっかりしており、あいさつや生活態度の面でしっかりと上級生が下級生をしつけており、「集団生活」というものがきれいに形になっていました。

先ほども申しましたように沖縄高専はまだ新設校であり、学生寮においても、まだうまく機能していない部分や、足りない部分もたくさんありますが、そういった部分も補修していく中で、新設校ならではの特色を生かした学生寮づくりといったものを来年度からも寮生会と寮生とが一体となって行っていきたいと思っております。

平成23年度も沖縄高専学生寮をどうぞよろしくお願い致します。

平成22年度後期の寮関連行事

10月3日(日)	後期開寮式	23日(木)	男子寮居室点検
27日(水)	全体清掃	24日(金)	〃
11月17日(水)	全体清掃	25日(土)	年末閉寮式
12月21日(火)	女子寮居室点検	1月5日(水)	年始開寮式
22日(水)	冬の寮生祭	26日(水)	全体清掃

後援会会長挨拶



後援会会長 石垣 克夫

後援会は、今年度も学生の教育・研究活動・課外活動・進路指導・福利厚生などを支援してまいりました。

先行き見通しの立てにくい社会情勢の中、進路について迷ったり、不安を持っている学生や保護者からの要望を受け、初めて開催した1、2期生との交流会を支援しました。先に就職や進学した先輩たちから、職場の雰囲気や進学先の様子などを具体的に聞いたり、意見交換を行うことで、進路について考えるよい機会となったようです。12月の研修旅行の際に卒業生に宿泊先まで来てもらったり、後援会支部会活動の一環として交流会を開催した支部もありました。参加した皆さんには好評だったとの報告があり、今後も継続できるよう願いたいと思います。

また、昨年末には支援事業をさらに充実させようと2台目の後援会車両も導入しました。こちらでも有効活用していただきたいと思います。

後援会は、今後も学生の支援事業、会員同士の交流・連携を図ってまいります。活動内容はホームページにも掲載しています。会員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

沖縄工業高等専門学校後援会ホームページ
<http://www.cosmos.ne.jp/~kouenkai/>



▲2台目の後援会車両 トヨタハイエース (H22.12.8導入)

保健室より

有意義で充実した学生生活を送るためには、健康であることが最も重要です。健康であることへの過信や無関心から、不摂生や過労で思いがけない病気を招くことがないように自分の身体は自分で守ることを心がけ、日頃から自主健康管理を怠らないようにしましょう。

保健室では、看護師2名が朝の8時半から部活終了の19時まで在室し、学生の怪我や疾病に対する処置を行っています。生活習慣に対する相談や、身体の調子が優れない時など、さまざまな相談にも応じています。休み時間や放課後など、身長・体重・血圧測定にもよく利用されています。

身体の健康管理では、月に1度(第2木曜日)14時半から17時半までの間、学校医の山城先生(内科)が来校され、健康相談に対応されています。

心の健康管理では、毎週2回の月曜日(15時半から18時半まで)、木曜日(15時から18時まで)と、カウンセラーによる学生相談を実施しています。一人30分から50分程度の相談時間となり、予約が必要な時もあります。相談の内容は限定されません。

学生の皆さんが心身共に健康で、高専生活を楽しく過ごして頂くため保護者や教職員の協力を得ながらサポートしていきますので、気軽に利用して下さい。

また、保健室では、学生が健康のことに興味を持ち、健康づくりに少しでも役立てたらと思い、「保健室便り」をメールで配信しています。学生の皆さんの健康に関係のある題材を選んでいきますので、保護者の皆さんも是非参考にして頂きたいと思っております。



本校看護師(左から岸本さん、武村さん)

平成23年度学生募集結果一覧

◆推薦による選抜

	志願者数		合格者数	
	男子	女子	男子	女子
機械システム工学科	15	3	11	2
情報通信システム工学科	15	2	14	2
メディア情報工学科	6	10	3	10
生物資源工学科	16	8	10	4
男女別計	52	23	38	18
合計	75		56	

◆学力による選抜

	志願者数		合格者数	
	男子	女子	男子	女子
機械システム工学科	44	2	38	3
情報通信システム工学科	47	2	40	4
メディア情報工学科	26	7	23	19
生物資源工学科	44	20	26	16
男女別計	161	31	127	42
合計	192		169	

◆専門実習(自己推薦)による選抜

	志願者数		合格者数	
	男子	女子	男子	女子
メディア情報工学科	10	4	4	3
合計	14		7	

学生課窓口のご案内

保護者の方へ

学生関係の担当窓口は下記のようにしております。
要件により、該当する係の電話番号へお問い合わせ下さい。
受付時間は平日の8:30～17:00となっております。
なお、12:15～13:00には充分に対応できない場合がございますのでご了承下さい。

教務係 0980-55-4028

学生係 0980-55-4032

寮務係 0980-55-4039

各係の業務内容

◆教務係

- ・授業、定期試験 ・教科書 ・休学、復学、卒業 ・欠席、忌引、公欠、出席停止、
- ・住所変更 ・大学等への編入学 ・研修旅行 ・学生証 ・在学証明書、成績証明書、卒業証明書

◆学生係

- ・各種奨学金 ・授業料、入学料免除 ・学割、通学証明 ・課外活動、各種諸行事・バイク、自動車通学許可
- ・就職関係 ・高等学校等就学支援金 ・インターンシップ ・留学生関係

◆寮務係

- ・入寮、退寮 ・寮の諸経費 ・寮生の生活 ・在寮証明書 ・外泊の連絡

平成23年度(前期)行事予定表

4月		5月		6月		7月		8月		9月	
1	金	春季休業	1	日		1	水	本科1年授業日 本科2年~専攻科2年予備日	1	月	
2	土	在校生開寮	2	月	昭和の日の振替	2	木	前学期中間試験	2	火	
3	日	入学式 新入生入寮 入寮式・開寮式・対面式	3	火	憲法記念日	3	金		3	水	
4	月	新入生オリエンテーション 始業式(4時限終了後) 新入生の持込ノートPC事前設定会 本科2年~専攻科2年授業開始	4	水	みどりの日	4	土	後援会総会 (チャタンニライセンター)	4	木	予備日
5	火	課題確認試験(数学・本科1年) 新入生のノートPC設定会(3・4時限) JABEEプログラム説明会(4年) 健康診断(本科4・5年・専攻科2年)	5	木	こどもの日	5	日		5	金	前学期期末試験
6	水	健康診断・歯科検診 (本科1年・専攻科1年・留学生本科3年) 新入生のノートPC設定会(3・4時限) 履修検定講習会(本科1年)	6	金	体育祭の代休	6	月		6	土	
7	木	本科1年授業開始 健康診断(本科2・3年)	7	土		7	火		7	日	
8	金		8	日		8	水	前期クラスマッチ (学生会主催)	8	月	
9	土		9	月	専攻科学力選抜願書受付 専攻科学力選抜試験 問題提出期限	9	木		9	火	
10	日	開校記念日	10	火		10	金		10	水	
11	月	専攻科推薦選抜 願書受付	11	水	第1回定期学生会議会	11	土		11	木	試験返却日 学生寮居室点検・清掃
12	火		12	木		12	日		12	金	
13	水	部活動紹介 (学生会主催)	13	金	専攻科推薦選抜入学 確約書提出期限	13	月		13	土	閉寮式
14	木		14	土		14	火		14	日	閉寮
15	金		15	日		15	水		15	月	夏季休業 寮居室チェック
16	土		16	月		16	木	公開授業週間・寮見学会 学校・学科懇談会 保護者面談	16	火	
17	日		17	火		17	金		17	水	
18	月	学生寮避難訓練	18	水	学生寮月例大掃除 地域清掃(学生会主催)	18	土		18	木	
19	火		19	木		19	日		19	金	敬老の日
20	水	学生寮月例大掃除	20	金		20	月		20	土	
21	木	産学連携協力理事会・総会・懇談会 (ロワジールホテル那覇)	21	土	専攻科学力選抜	21	火		21	日	
22	金		22	日		22	水	高専大会推戴式 (学生会主催)	22	月	寮整備・完全閉寮
23	土	専攻科推薦選抜	23	月		23	木	慰霊の日(授業なし)	23	火	
24	日		24	火		24	金		24	水	
25	月		25	水		25	土		25	木	
26	火		26	木	専攻科学力選抜 判定会議	26	日		26	金	編入学試験
27	水	専攻科推薦選抜判定会議	27	金	専攻科学力選抜判定結果通知 県高校総体(総合開会式)	27	月	木曜日の授業	27	土	
28	木	専攻科推薦選抜判定結果通知	28	土	県高校総体	28	火		28	日	
29	金	昭和の日(授業日)	29	日		29	水	笹の掲示(学生会主催)	29	月	
30	土	体育祭	30	月	本科1年授業日 本科2年~専攻科2年予備日	30	木		30	火	
			31	火	本科1年授業日 本科2年~専攻科2年予備日				31	水	専攻科学力選抜確約書 提出期限 編入学試験判定会議
<ul style="list-style-type: none"> ・学生寮居室点検・清掃 ・インターンシップ説明会(4年次) 		<ul style="list-style-type: none"> ・学生寮居室点検・清掃 ・寮生総会(寮生会) ・リーダー研修(学生会主催) 		<ul style="list-style-type: none"> ・学生寮居室点検・清掃 		<ul style="list-style-type: none"> ・学生寮居室点検・清掃 ・夏の寮祭(寮生会) 		<ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会(福岡) ・寮業者壁等修繕 ・寮居室消毒(ハウスクリーニング) ・校内美化(学生会主催:夏季休業前) ・図書館蔵書点検 		<ul style="list-style-type: none"> ・寮業者壁等修繕 ・寮業者ワックスがけ ・寮トイレ、浴室等重点清掃 ・産学連携協力会施設見学会(予定) ・寮トイレ、浴室等重点清掃 	